

みんなで支える森林づくりニュース(第3号)

平成24年5月

森林づくりに関する税検討委員会を開催しています

森林には土砂崩壊の防止や水源のかん養など様々な機能があり、その恩恵は広く社会全体が享受しています。社会の共有財産とも言うべき森林を社会全体で支えるため、森林づくりに関する税について、導入の是非も含め、在り方・用途等を検討する「森林づくりに関する税検討委員会」を開催しています。去る4月25日に開催された第3回検討委員会での議論の概要をお知らせします。

第3回検討委員会では、税が導入された場合の使い方について、出席した13名の委員でさまざまな観点から議論していただきました。

以下に主な意見をお知らせします。



第3回検討委員会(平成24年4月25日)

(委員の皆さんのご意見要旨)

○新たな財源を求める理由の整理

- ・ 山地災害への対応が緊急を要するのは分かるが、これまでの事業の評価結果も示した上で、なぜ追加で課税するのか、納得できる説明が必要。一般財源が減った部分の穴埋めをするようなことでは納得されない。
- ・ 消費税増税の議論もあり、増税にはアレルギーがあると思う。税金を取るなら分かりやすい説明が必要。

○税金の使い方

- ・ 森林づくりを進める上で、市町の役割が増している。市町への配分を考えるべき。
- ・ 自分の山がどこにあるか分からない人が多い。森林境界の明確化に税金を使ってはどうか。
- ・ 小学校に木製のイスを配るのは良い。三重県の木を使ってできていることや、木を使うことで森林の整備が進むことを子ども達に学ばせるような教育とセットにすれば、さらに広がりができる。
- ・ 税を活用した事業は、市民参加型や市民提案型でも実施されるべき。

○税金を使って実施した事業の効果検証

- ・ 一定期間を定めて評価・検証を行い、その時々の方民ニーズも踏まえながら制度を進化させればよい。そのための第三者による評価委員会のようなものを設けるべき。
- ・ 森林整備の効果について、長期間かかる話であり見えにくい部分がある。昔、豪雨で多くの被害が出た流域でも、整備が進んだおかげで現在は被害が出なくなっていることを実感している。森林所有者自らこうしたことを広くアピールすることが必要だ。

○県民の意識調査

- ・ 検討委員会には各界の代表が参加しているが、県民の意見を聞くのも大切。アンケート等を使って意識調査してはどうか。
- ・ 検討委員会報告書の骨子案について、パブリックコメントを9月までに実施してはどうか。

○その他

- ・ 法人への課税に関しては、様々な負担も増える中、重税感を生じない配慮が必要。一方、個人への課税に関しては、税の用途をしっかりと説明して理解を得るよう努力すべき。
- ・ 一義的には森林所有者が森林を適正に管理する責務があるので、応分の負担があるべき。全額公費での森林整備は、森林を持っていない人にとっては、不公平感があるのではないか。
- ・ 税導入が森林づくりへの県民の参加意識を喚起するきっかけになるのではないかと期待している。
- ・ 様々な主体による森林づくりを進めるためには、森林づくりのビジョンの共有が必要。